

【研究論文】新聞（生活面）における外来語の使用実態調査

野崎 登司枝

日本大学大学院総合社会情報研究科修了生

Usage survey of loan words in newspapers ('life' pages)

NOZAKI Toshie

M.A., Graduate School of Social and Cultural Studies, Nihon University

This study aims to investigate the kinds of loan words that have been used recently in our daily lives and explore their trends. Regarding the research methods, the number of occurrences of loan words listed in the 'Dictionary of Katakana Words' was counted in newspaper articles published in 'life' pages between 2004 and 2021, using the online newspaper database 'Asahi Shimbun Cross-Search'. The 100 most frequently used words were classified according to the 'Classification Vocabulary Table'. This study discovered that basic vocabulary lists for Japanese learners failed to accurately explain loan words with multiple meanings. It also pointed out some difficulties that could pose obstacles to learning Japanese, in addition to the challenge of learning loan words which Japanese learners face as mentioned in earlier studies.

1. はじめに

1.1 研究の背景

文化庁文化庁国語課は、国語施策の立案のために日本人の国語に関する意識や理解の現状を毎年調査している。2018年に行われた調査（文化庁文化庁国語課 2018）において83.5%の回答者が「日頃、読んだり聞いたりする言葉に出てくる外来語や外国語のカタカナ語の意味が分からず困ること」が「ある」と回答した。日本語教育の分野では、陣内（2008）が479人の日本語学習者にカタカナ語に関する質問紙調査をしたところ、77.8%の学習者が日常生活の中でカタカナ語がわからず困ったことが「ある」と回答した。その10年後、陣内（2008）の研究方法に基づき、邵・才田（2019）が中国人日本語学習者に行った調査でも「外来語がわからなくて困ったことはどれくらいありますか」という質問に、87.6%の回答者が「よくある」、「ある」と答えた。このことから、外来語が日本語学習の障壁となっていることがわかる。近年では、政府や自治体が新型コロナウイルスに関連した用語としてカタカナ語を多用していることが問題視されている¹。また、江間（2020）

は、大学生（日本語母語話者）を対象に調査を行い、大学生の多くがマスコミで使用されるカタカナ語を理解していないことを明らかにした。この結果は「若者は外来語に強い」という一般的な考えを覆すものであり、外来語理解に関する問題は、特定の世代に限ったことではないことがわかる。

1.2 研究目的と研究課題

このような「日本語母語話者にとっても日本語学習者にとっても日常の言語生活に支障を及ぼす外来語」が支障を及ぼさなくなるためには、どうしたらいいだろうか。有効な手段として、日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語を学ぶことがあげられる（彭 2003）。では、日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語を明らかにするにはどのような媒体が適切であろうか。例えば、鄧（2019）は、新聞で使用された外来語を各面種ごとに調査し、生活面では幅広い外来語が多数使用されていることを明らかにしている。また、佐竹（2002）は、日常生活で使用される外来語を知るためには「生活家庭面」が適していると示している。このように、これまでの研究

では日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語を知るために新聞が使われており、特に生活面を取り上げることが適切な方略だと思われる。そこで、近年、新聞（生活面）で使用されている外来語の実態を明らかにすることを本研究の目的とする。この目的を達成するための研究課題を次のように設定する。

研究課題 近年、新聞（生活面）において使用頻度の高い外来語とそれらの傾向を明らかにする。

1.3 外来語の定義

ここで一度、本研究で使用する用語と類義語について整理しておく。本研究では「漢語を除く、外国の言葉が日本に入り込み定着したもの」（国立国語研究所 2000）を「外来語」の定義とする。先行研究において、「外来語」を表す用語の表現方法は研究者によりゆれが生じている。井上（2004）は、「カタカナ語（外来語）」とし、望月（2012）は、「カタカナ外来語」と称している。カタカナ語とは外来語の他に、擬音語（例：ドスン）、擬態語（例：ピカピカ）、固有名詞（例：アメリカ）、強調表現（例：ステキ）などを含む場合が多い（堀切 2013）ことから、本研究では「カタカナ語」ではなく「外来語」を使用する。先行研究の中で「カタカナ語」とされたものはそのまま表記する。

そもそも語彙は、図1の通りその出自から「固有語（本来語）」と「（広義の）借用語」に分けられる。日本語において固有語は「和語」であり、借用語は古代中国語に由来する「漢語」と、漢語を除いた「（狭義の）外来語」とに分けられる（阿久津 2015）。『現代言語学辞典』（田中他編 1988）の「foreign word 《外来語》」の項では「外国語の音と

アクセントをほぼそのままの形で取り入れられたものを外来語といい、自国の音韻体系に合うように変形して取り入れたものを借用語（LOAN WORD）という」とされている。また、『国語学辞典』（国語学会編 1955）では「他の言語体系の資料を自国語体系に借り入れて、その使用が社会的に承認されたもの」を全て「外来語」としている。本研究では、阿久津（2015）の分類に則り借用語は外来語を包括する概念とする。

2. 先行研究

新聞（生活面）において具体的にどのような外来語が使用されているかという調査は、佐竹（2002）、中山他（2007）などで行われている。中山他（2007）は、新聞において使用範囲が広く使用率が高い外来語を「基幹語彙」²として「生活面」を含む各面種ごとに100語のリストを示した。佐竹（2002）は、1997年に発行された新聞三紙の「生活家庭面」にあたる面で多く使用される外来語139語のリストを示した。このように、新聞（生活面）で多く使用されている外来語はすでに先行研究で示されているが、佐竹（2002）は、1997年、中山他（2007）は、1994年から2003年に発行された新聞資料を基にしたものである。それ以降に発行された新聞についての調査は研究ノートレベルでは見かけるが、管見の限りない。

3. 研究の方法

井上（2004）では、外来語がどれだけの記事で使用されたかが基本語彙選定の基準のひとつとされた。そこで本研究は、新聞資料をコーパス化せず、新聞データベースの検索機能を使用し、検索欄に外来語を入力し、その外来語が何件の記事で使用されたかを調べることにする。そして、新聞（生活面）において使用された件数の多い外来語100語のリストを作成し、分析を行う。

3.1 調査資料

朝日新聞データベース『朝日新聞クロスサーチ』、2004年1月1日から2021年12月31日までの17年間に発行された新聞「生活面」の記事を調査資料と

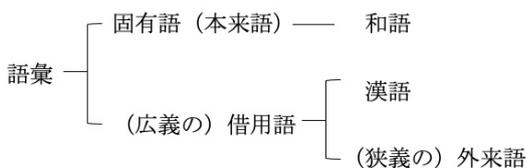


図1 語彙の分類 阿久津（2015, p.21より抜粋）

する。本研究に『朝日新聞クロスサーチ』を用いる理由は、検索条件として面種「生活面」が選択可能であるためである。2004年以降に発行された新聞を調査資料としたのは、中山他(2007)が2004年以前に発行された新聞を調査資料としていたためである。

3.2 検索する外来語

調査資料を検索する語は、『見やすいカタカナ新語辞典第4版』(三省堂編修所編 2021)に掲載された見出し語とする。見出し語「ア」から「ワ」全12,105語のうち、商品名(例:「アイフォーン」, 「ウォシュレット」), 外国語由来でないカタカナ表記された語(例:「イケメン」, 「ヒトカラ」), 漢字やアルファベットとの混種語(例:「クラウド会計」, 「コミュニティ FM」), 通常アルファベット表記される語(例:「アイティー(IT)」, 「シーディー(CD)」)は除いた。多くの先行研究(佐竹 2002, 中山他 2007など)では固有名詞全般を検索対象から除いているが、『見やすいカタカナ新語辞典第4版』(三省堂編修所 2021)は「人名・地名・作品名などの固有名詞の類は基本的に載せなかった」としており、「人名・地名・作品名」は掲載されていなかった。そのため、辞典に掲載されていた固有名詞のうち「商品名」を除くことを条件とした。

カタカナ語辞典で別々の見出しになっている語、例えば「コロナ」と「コロナウイルス」という語であるが、「コロナウイルス」の検索結果の件数に「コロナ」は含めないこととする。その理由は、「コロナ」が世界的流行を見せる前に使用されていた意味である「太陽大気の外層」, 「太陽や月の周りにできる光の輪」の出現件数を考慮できないためである。また、「アクセスポイント」や「アクセスログ」は、それぞれ見出し語の項目があるため「アクセス」の検索結果の件数にそれらを含めない。反対に、助数接辞の「キロ」は、「キロ」という見出し語、「メートル」という見出し語があるが「キロメートル」という見出し語がないため、「キロ」の検索結果に「キロメートル」, 「キログラム」, 「キロカロリー」などが含まれる。

外来語の語形のゆれについて本研究では、カタカナ語辞典の見出し語の表記に従う。

3.3 検索条件

検索条件は、以下の通りである。

- ・詳細検索・朝日新聞のみ³
- ・異字体を含めず検索・同義語を含めず検索
- ・発行日 2004年1月1日から
2021年12月31日
- ・検索対象 本文のみ・朝夕刊 朝刊と夕刊
- ・面名 生活面(生活+くらし)
- ・本紙/地域面 本紙のみ・発行社 東京

記事1件の中で同じ外来語が何度も出現したとしても使用された件数は「1」とする。コーパスを用いた調査では延べ語数, 異なり語数を求めることができるが、本研究で使用した『朝日新聞クロスサーチ』では、それらを求めることはできないため、本研究では延べ語数については考慮しない。

3.4 分析方法

新聞(生活面)において使用された件数の多い外来語100語の分析方法は、『分類語彙表増補改訂版』(国立国語研究所 2004)の「類」(体(名詞の類), 用(動詞の類), 相(形容詞, 形容動詞, 副詞, 連体詞の類)), 「部門」⁴(抽象的關係, 人間活動の主体, 人間活動—精神および行為, 生産物および用具, 自然物および自然現象), 「中項目」, 「分類項目」に基づき調査結果を分類し, 近年(2004年以降)における新聞の「生活面」で使用された外来語の傾向を明らかにする。この分類表は、「類」が整数位に置かれ, より広い概念から順に「類」, 「部門」, 「中項目」, 「分類項目」と位置付けされたものである。例えば「外来語」という語は、「1.3110-15」という番号が付される。これは、「1」(類)体の類, 「1.3」(部門)人間活動—精神および行為, 「1.31」(中項目)言語, 「1.3110」(分類項目)語, と分類されることを表している。

4. 研究結果

4.1 使用された頻度が高い外来語

『見やすいカタカナ新語辞典第4版』（三省堂編修所編 2021）に掲載された見出し語が2004年1月1日から2021年12月31日までの17年間に発行された朝日新聞「生活面」の記事何件で使用されたかを調査した結果、使用された件数が多い上位100語は表1の通りとなった。表1から、「キロ」、「グラム」、「センチ」など単位を表す語が多いことがわかる。このことは、先行研究の調査結果（佐竹 2002, 中山他 2007）と同様である。また、3.2で述べたように、助数接辞の「キロ」は、検索結果に「キロメートル」、「キログラム」、「キロカロリー」などが含まれるため使用された件数が多くなったと思われる。そして、「ボウル」、「カップ」、「サラダ」など調理や食に関する語も多用されている。これは「生活面」の中にレシピ（調理法）を紹介するコーナーが、ほぼ毎日連載されていることが要因と考えられる。このことは、1997年に発行された新聞の「生活家庭面」を調査した佐竹（2002）の調査結果と同様である。

4.2 使用された頻度が高い外来語の分類

4.1の調査で得られた100語を『分類語彙表 増補改訂版』（国立国語研究所 2004）の見出しを用いて、「類」、「部門」、「中項目」、「分類項目」を分類番号順に整理した結果、複数の意味を持つ語が100語中39語あった。その中で、複数の分類項目（意味）を持つ語には括弧をつけ、括弧内に通し番号を入れた。通し番号の順は、分類番号の順に従った。例えば、「カップ」の場合、分類番号「1.1962」（類：体の類、部門：抽象的關係、中項目：助数接辞）の「1 カップ」のような単位としての意味を「カップ (1)」とし、分類番号「1.4520」（類：体の類、部門：生産物および用具、中項目：食器・調理器具）の「(マグ) カップ」のような器としての意味を「カップ (2)」と表した。括弧のない語は意味がひとつとされている語である。日常生活で使用される外来語は、生産物および用具に分類されるような道具が多いのか、それとも、抽象的な関係に分類されるような概念が多いのかを測るため、以下のように「類」と「部門」が同じものを整理した結果、

以下の通りとなった。「体の類」と「相の類」のみで、「用の類」に該当する語はなかった。また、「レシピ」、「スマホ」、「ウェブサイト」、「ブログ」の4語については分類語彙表に項目がなかったため分類できなかった。

分類番号の上2桁が 1.1（類）体（部門）抽象的關係 46語（分類番号順）

ケース (1), ケース (2), データ, タイプ (1), モデル (1), スタイル (1), レベル, ソース (1), スタイル (2), インターネット (1), システム, バランス, トラブル (1), リスク, エネルギー (1), スタート (1), スタート (2), パック (1), アップ (1), ショック (1), サービス (1), アップ (2), スタート (3), スタート (4), ポイント (1), ネットワーク (1), ホーム (1), センター (1), チェック (1), ポイント (2), デジタル, パート (1), グループ (1), シリーズ (1), セット (1), キロ, グラム, カロリー, カップ (1), センチ (1), ミリ, メートル, リットル, パック (2), ポイント (3), セット (2)

分類番号の上2桁が 1.2（類）体（部門）人間活動の主体 24語（分類番号順）

ママ, グループ (2), ボランティア (1), プロ, スタッフ (1), メンバー, パート (2), モデル (2), ヘルパー, ボランティア (2), センター (2), メーカー, スタッフ (2), ホーム (2), センター (3), クリニック, クラブ (1), ホーム (3), スーパー (1), ホテル, センター (4), チーム, グループ (3), クラブ (2)

分類番号の上2桁が 1.3（類）体（部門）人間活動—精神および行為 48語（分類番号順）

ストレス (1), ショック (2), トレーニング (1), チェック (2), テーマ, イメージ, ルール, キーワード, ストレス (2), チェック (3), リスト, インターネット (2), ネットワーク (2), メール, コミュニケーション, ニュース, アンケート, スーパー (2), タイプ (2), メモ, ビル (1), ホームページ, グラフィック (1),

表1 新聞（生活面）で多く使用された外来語上位100語

順位	語	件数	順位	語	件数	順位	語	件数	順位	語	件数
1	キロ	6858	26	チェック	1200	50	レンジ	858	76	ルール	647
2	メール	6845	27	トイレ	1184	52	アップ	828	77	バター	644
3	グラム	6409	28	サラダ	1181	53	スープ	825	78	システム	638
4	カロリー	5507	29	スタッフ	1153	54	アンケート	818	79	ウェブサイト	617
5	センター	4791	30	ベッド	1142	55	サポート	811	80	ホテル	603
6	センチ	4574	31	ケア	1140	56	ラップ	798	81	チーズ	594
7	カップ	2151	32	チーム	1074	57	ネットワーク	786	82	モデル	576
8	ケース	1997	33	ストレス	1055	58	イベント	773	83	カード	570
9	ミリ	1990	34	ボランティア	1032	58	デザイン	773	84	プロ	568
10	テレビ	1736	35	トレーニング	1018	60	メニュー	757	85	ブログ	559
11	ポイント	1707	36	データ	992	61	ショック	751	86	スタイル	554
12	ボウル	1545	37	トラブル	963	62	リハビリ	742	87	キッチン	545
13	メーカー	1522	38	アドバイス	961	63	カメラ	740	88	セット	539
14	インターネット	1497	39	バランス	955	64	メンバー	725	88	ビル	539
15	グループ	1494	40	ネット	954	65	リスト	723	90	ペット	537
16	ホームページ	1484	41	クリニック	951	66	パック	708	91	カレー	536
17	テーマ	1439	42	パート	940	67	グラフィック	705	92	パン	521
18	リスク	1425	43	ウイルス	932	67	コミュニケーション	705	93	ワイン	510
19	レシピ	1342	44	マンション	929	69	シリーズ	696	94	タオル	508
20	ホーム	1335	45	スマホ	909	70	スタート	690	95	ニュース	507
21	サービス	1328	46	クラブ	906	71	ママ	675	96	エネルギー	505
22	タイプ	1222	47	キーワード	893	72	リットル	668	96	レベル	505
22	パソコン	1222	48	スポーツ	884	73	デジタル	666	98	ヘルパー	504
24	メートル	1217	49	ソース	874	74	バス	665	99	プログラム	502
25	イメージ	1203	50	スーパー	858	75	アルバイト	662	100	メモ	494

シリーズ (2), メニュー, プログラム, グラフィック (2), デザイン, アルバイト (1), パート (3), パック (3), セット (3), パック (4), スポーツ, トレーニング (2), イベント, サービス (2), サービス (3), トラブル (2), アドバイス, ケア (1), サポート, サービス (4), アルバイト (2), タイプ (3), リハビリ, ケア (2), パック (5)

分類番号の上 2 桁が 1.4 (類) 体 (部門) 生産物および用具 36 個 (分類番号順)

パック (6), チェック (4), ラップ, モデル (3), ネット, ベッド (1), サラダ, スープ, パン (1), ソース (2), バター, チーズ, カレー, ワイン, マンション, ビル (2), トイレ, キッチン, ベッド (2), レンジ, バス (1), ボウル (1), パック (7), ケース (3), パン (2), ボウル (2), カップ (2), タオル, クラブ (3), カード, カメラ, テレビ, パソコン (1), タイプ (4), パソコン (2) バス (2)

分類番号の上 2 桁が 1.5 (類) 体 (部門) 自然物および自然現象 4 語 (分類番号順)

エネルギー (2), ペット, バス (3), ウイルス

分類番号の上 2 桁が 3.1 ((類) 相 (部門) 抽象的関係 1 語

スーパー (3)

分類番号の上 2 桁が 3.3 (類) 相 (部門) 人間活動—精神および行為 2 語 (分類番号順)

ショック (3), センチ (2)

「類」と「部門」が同じ語を整理した結果、次のようなことがわかった。「(類) 体の類, (部門) 人間活動—精神および行為」に分類項目が 48 個あることに対し、「(類) 体の類, (部門) 抽象的関係」が 46 個と、ほぼ同数で、「(類) 体の類, (部門) 生産物および用具」は 36 個であった。宮島 (1980) は、新聞ではないが公共媒体である雑誌 90 種で使用された上位 7,000 語の外来語のうち

19.4%もが『分類語彙表』(国立国語研究所 1964)の「(類) 体の類, (部門) 生産物および用具」に含まれている(抽象的関係は 2.2%, 人間活動の主体は 3.0%) ことから「外来語は、生産物および用具に多く使用されている」と結論づけた。その後、金 (2011) が 20 世紀後半の新聞で増加している外来語には抽象的な意味を表すものの方が具体的な意味を表すものより多い傾向があることを明らかにしたが、本研究の調査でも同様の傾向がみられた。

分類項目まで考慮すると「(類) 体の類, (部門) 抽象的関係, (中項目) 量, (分類項目) 助数接辞」が 11 個と最も多く使用されていたことがわかった。量を表す助数接辞とは「キロ」, 「グラム」, 「センチ」などの単位を表す語で、それらが多く使用されていたことは、先行研究の調査結果 (佐竹 2002, 中山他 2007) と同様である。

4.3 複数の意味を持つ語の分析結果

複数の意味を持つ語 (100 語中 39 語) を整理した結果は以下の通りである。(使用された件数が多い順)

分類項目数 7 個 (100 語中 1 語) 「パック」

分類項目数 4 個 (100 語中 5 語) 「センター」, 「サービス」, 「タイプ」, 「チェック」, 「スタート」

分類項目数 3 個 (100 語中 11 語) 「ケース」, 「ポイント」, 「グループ」, 「ホーム」, 「パート」, 「クラブ」, 「スーパー」, 「ショック」, 「バス」, 「モデル」, 「セット」

分類項目数 2 個 (100 語中 22 語) 「センチ」, 「カップ」, 「ボウル」, 「インターネット」, 「パソコン」, 「スタッフ」, 「ベッド」, 「ケア」, 「ストレス」, 「ボランティア」, 「トレーニング」, 「トラブル」, 「ソース」, 「アップ」, 「ネットワーク」, 「グラフィック」, 「シリーズ」, 「アルバイト」, 「スタイル」, 「ビル」, 「パン」, 「エネルギー」

最も意味 (分類項目) の数が多かった (7 個) 「パック」について「部門」, 「中項目」, 「分類項目」を分類番号順で示したものが表 2 である (例は筆者による)。

表2 パックの分類項目

例	部門	中項目	分類項目	分類番号
ご飯をパックする	抽象的関係	作用	包み・覆いなど	1.1535
1パック	抽象的関係	量	助数接辞	1.1962
(美容目的の)パック	人間活動 —精神および行為	生活	保健・衛生	1.3334
パック旅行	人間活動 —精神および行為	生活	旅・行楽	1.3371
パック加工業	人間活動 —精神および行為	事業	製造・加工・包装	1.3860
バックパック	生産物および用具	物品	荷・包み	1.4030
(容器などの)パック	生産物および用具	道具	おけ・たる・缶	1.4512

分類項目は7個もあるものの、外来語「パック」の意味は、「包み」、「包まれたもの」、「包むこと」と関係している。美容目的の「パック」も肌を「包むこと」という点では、関係があるといえる。「pack」の名詞としての意味は「包み、荷物」、「ひとそろい、ひと組、ひと箱、ひと包み」、「(悪人、オオカミなどの)群れ、たくさん」で、動詞としての意味は「詰める、詰め込む、荷造りする」(田島・三省堂編修所編 2020)である。外来語「パック」は、日本語の意味が原語の意味に概ね準じているといえるだろう。

複数の意味を持つ語が調査で得られた100語中39語あることは「日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語は複数の意味を持つことが比較的多い」といえるだろう。

4.4 分類語彙表にない意味で使用されている語の分析結果

調査で得られた語を分類していく過程で、分類項目によって示されていない意味を持つ語が見られた。「ネット」、「アップ」、「ラップ」の3語は、それぞれが持つ分類項目の意味以外の使われ方をしていた。この3語について実例をあげながら使用の様相をみ

ていく(太字は筆者による)。

<ネット>

「体の類、生産物および用具、資材、網」としての使用例

「ビニールハウスに**ネット**を張る作業が進む。」(2004年4月10日)

分類語彙表にない意味「ネットワークの略語」としての使用例

「仕事情報**ネット**、ハローワークの求人と民間の求人情報が閲覧できる。」(2004年3月30日)

分類語彙表にない意味「インターネットの略語」としての使用例

「帽子や水着などを**ネット**中心に販売しているが、「帽子は今年に入って約300個が売れ、生産が追いつかない状態」と、代表の松成紀公子さん(34)。」(2004年5月2日)

<アップ>

「体の類、抽象的関係、作用、増減補充」としての使用例

「月給30万円なら04年10月から本人の保険料負担は月2万901円と、現在より月531円**アップ**。」(2004年1月21日)

「体の類、抽象的関係、作用、上がり・下がり」としての使用例

「工場での座り作業を立ち作業に変えたところ、効率が**アップ**したので、00年から会議でも導入し始めた。」(2004年2月17日)

分類語彙表にない意味「アップロードの略語」としての使用例

「県内各地の祭りや行事、人を取材して記事をHPに**アップ**する日々を送っている。」(2004年8月18日)

<ラップ>

「体の類、生産物および用具、資材、紙」とし

ての使用例

「水大きじ1をふり、ラップをして電子レンジで約45秒加熱し、冷めてから細かく裂きます。」
(2004年4月26日)

分類語彙表にない意味「(音楽の)ラップ」としての使用例

「ラップのリズムに合わせたシュプレヒコールは、ときにユーモラスで、思わずプツと噴き出してしまう。」(2015年9月22日)

5. 考察

本研究では、2004年から2021年間に新聞（生活面）で使用された頻度の高い外来語100語を表1のように示した。当初、これらの語は「日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語」であるといえ、これらを示すことは、日本語学習者による外来語学習の一助となり得るだろうと筆者は考えた。しかし、調査で得られた語を分類していくうち、日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語は、複数の意味を持つことが比較的多いことがわかった。つまり、これらの語をリストにし、提示しただけではどのような意味を指しているのかわからないことに気づいた。したがって、日本語学習者用外来語基本語彙などを作成する場合は、選定された語がどのような意味で使用されているかも指定する必要がある。また、外来語の意味が略されたり（「ネット」、「アップ」）、新しい意味（「ラップ」）が追加されたりする現象がみられた。新しい意味が加わった「ラップ」という語であるが、元となる英語「wrap」、「rap」、「lap」⁵は、日本語では全て「ラップ」と表記される。外来語の元となる語が日本語に馴染みのない音を持つ場合、原音に近い音に置き換えられる（文化庁1991）ことは、日本語学習者の外来語学習の障壁となっている（陣内2008）。しかし、この問題は、日本語学習者に限ったことではない。原田（1997）は、英語教材などで書かれる英単語のカタカナ表記には当該英単語と違いがあるものがでてくることを示した。英語を学ぶ日本語母語話者にとっても、英語がカタカナ表記されることは問題となっていることがうかがえる。「wrap」、「rap」、「lap」は以下のような意味

を持っている。

「wrap」＜動詞＞ 包む、くるむ、巻く、くるまる

「rap」＜名詞＞ ①ラップ音楽、②こつんとたたくこと

＜動詞＞ ①こつんとたたく、②（新聞などで）批判する、非難する

「lap¹」＜名詞＞ 膝（の上）座った時の腰から両膝までの両ももの上の部分

「lap²」＜動詞＞（犬・ネコが水などを）ぴちゃぴちやなめる（飲む）

「lap³」＜名詞＞（競技トラックの）1周、（競泳プールの）1往復

（『ジュニアクラウン中学英和辞典（第14版）』（田島・三省堂編修所編2020））

日本語にない音を含む語が、近い音を示すカタカナに置き換えられた結果、同じ表記で異なる意味を持つ「ラップ」のような語が生まれたということであろう。そもそも外来語の元となる語も英和辞典が示すように複数の意味を持っている。そのため、日本語に取り入れられた外来語が複数の意味を持つことは当然の結果と言える。

6. まとめ

6.1 本研究で明らかになったこと

本研究では、2004年から2021年間に新聞（生活面）で使用された頻度の高い外来語、即ち日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語100語を示した。そして、それらの100語を分類、整理した結果、複数の意味を持つ語が100語中39語あることがわかった。以上のことから、日常生活にかかわる使用頻度の高い外来語は、複数の意味を持つことが比較的多いことを明らかにした。

6.2 本研究の限界

本研究の限界としては、次の3点があげられる。1点目は「見出し語を検索欄に入力し、データベースを検索する」という調査方法を用いたため、「カタカナ語辞典」の見出し語にない語の使用件数を調

べられない点である。2点目は、見出し語の表記と新聞での表記が異なる場合、正確な結果が得られない点である（例：見出し語「FAX（ファックス）」は、新聞では「ファクス」）。辞典と新聞用語の表記の違いについては、別の調査が必要になるだろう。

3点目は、検索で得られた記事の中に「検索した語の文字列を含む見出し語にない別の語」が含まれる場合（「レシピ」の検索結果に「レシピエント（臓器移植を受ける人）」が含まれてしまうなど）、手作業で対象の語以外を取り除いたため、完全に排除することができたとはい切れない点である。

6.3 日本語母語話者への提案

本研究では、日本語学習者用外来語基本語彙のリストを作成する場合は、選定された語がどのような意味で使用されているかも指定する必要があることを示した。日本語教師は学習者に対し、外来語の「単語」の意味だけでなく「使用例」や「複合語」、「同音異義語」も併せて示す必要があるだろう。その際に示す「使用例」や「複合語」、「同音異義語」は、どのような例や語が学習に効果的であるかは今後、研究する必要がある。

外来語の意味が略されたり、新しい意味が追加されたりする現象がみられたが、日本語母語話者にとっての外来語理解の問題は「カタカナビジネス用語」や「専門用語」が理解できないことだけでなく、日本語母語話者が「意識していないうちに」外来語が略されたり、新しい意味が追加されたりすることなども含まれると考えられる。つまり、外来語はそのような変化（略されたり、新しい意味が追加されたりすること）をする語であるということを日本語母語話者が意識する必要があるだろう。外来語の変化について意識することで、非日本語母語話者に対し、みだりに外来語を略したり、新しい意味で使用したりせず、別の語で言い換えを行うことができるだろう。これは、非日本語母語話者に対してだけでなく、外来語に明るくない日本語母語話者に対しても有効性を持つものと考えられる。

注

1. 河野太郎防衛相が2020年3月24日の記者会見で

「日本語で言えることをわざわざカタカナで言う必要があるのか」と持論を展開した。「分かりやすく説明するのが大事だ」と、防衛省から厚生労働省に言い換えを求める意向を示した。（朝日新聞2020年3月26日）

2. 基幹語彙とは「ある語集団の基幹部として存在する語彙」（林1971）のことである。
3. 『朝日新聞クロスサーチ』では『朝日新聞』のほか『朝日新聞デジタル』、『アエラ』、『週刊朝日』の記事が閲覧できる。
4. 用・相の類は、人間活動の主体、生産物および用具の部門を欠く
5. 調査資料では使用されていなかったが、『見やすいカタカナ新語辞典第4版』（三省堂編修所編2021）には「ラップタイム」と「ラップトップ」の項目があった。「ラップタイム」は「lap³」と関連している。「laptop」とは、「（膝の上に乗せて使える）携帯用コンピューター」（田島・三省堂編修所編2020）とされており、「lap¹」と関連している。

引用文献

- 阿久津智（2015）「借用」とその影響，沖森卓也・阿久津智編『ことばの借用』朝倉書店，1-32
- 井上道雄（2004）「カタカナ語（外来語）基本語彙550語—その語彙特性と選定基準」『神戸山手大学紀要』第6号，65-79
- 江間直美（2020）「カタカナ語30語とマスコミ教育・日本語教育に関する試論—大学生のカタカナ語理解度調査と一般生活者アンケート調査の結果から—」『江戸川大学紀要』30，17-55
- 金愛蘭（2011）「20世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化」『阪大日本語研究』別冊3号，大阪大学
- 国語学会編（1955）『国語学辞典』東京堂
- 国立国語研究所（1964）『分類語彙表』秀英出版
- 国立国語研究所（2000）『白書，広報誌における外来語の実態（本編）』国立国語研究所
- 国立国語研究所（2004）『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書
- 佐竹秀雄（2002）「新聞の生活家庭面における外来語」，玉村文郎編『日本語学と言語学』明治書院，198-207

三省堂編修所編（2021）『見やすいカタカナ新語辞典第4版』三省堂

邵俊秋・才田春夫（2019）「中国人日本語学習者の外来語に関する意識と外来語教育の必要性」『富山国際大学紀要現代社会学部』第11巻，第2号，83-92

陣内正敬（2008）「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文化』11，47-60，関西学院大学

田島伸悟・三省堂編修所編（2020）『ジュニアクラウン中学英和辞典（第14版）』三省堂

田中春美他編（1988）『現代言語学辞典』成美堂

鄧琪（2019）「新聞における外来語ジャンル別出現状況の調査」『統計数理研究所共同研究レポート』414，145-156，統計数理研究所

中山恵利子・桐生りか・山口昌也（2007）「新聞に見る基幹外来語」国立国語研究所「外来語」委員会『国立国語研究所報告126 公共媒体の外来語』

<https://www2.ninjal.ac.jp/gairaigo/Report126/houkoku3-3.pdf>（2022年2月28日閲覧）

林四郎（1971）「語彙調査と基本語彙」『電子計算機による国語研究』3巻，39，1-35，国立国語研究所

原田良三（1997）「カタカナ語をめぐる問題－英語のカタカナ表記と発音，綴りなど－」『中国地区英語教育学会研究紀要』27，209-219

文化庁（1991）「外来語の表記」

https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/gairai/honbun01.html（2022年11月25日閲覧）

文化庁文化部国語課（2018）『平成29年度国語に関する世論調査』

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokueichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/92701201_02.pdf（2022年2月28日閲覧）

堀切友紀子（2013）「外来語に関する研究動向－使用意識と言語接触の視点から－」『お茶の水女子大学人文科学研究』第9号，113-124

彭飛（2003）『日本語の特徴 外国人を悩ませる日本語から見た漢字と外来語編』凡人社

宮島達夫（1980）「意味分野と語種」『研究報告集2』国立国語研究所

望月通子（2012）「基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発－その振り返りと新たな開発に向けて－」『関西大学外国語学部紀要』第6号，1-16

調査資料

朝日新聞社『朝日新聞クロスサーチ』

<https://xsearch.asahi.com>（2022年12月22日閲覧）

(Received: January 17, 2024)

(Issued in internet Edition: February 1, 2024)